

## 2022年3月期中間期の業績について

### ■ 損益の状況

2022年3月期中間連結会計期間における経常収益は、前年同期比7億円減少して212億円となりました。その内訳は、貸出金利および有価証券利息配当金の減少等を要因とする資金運用収益が前年同期比16億円減少、役員取引等収益は前年同期比1億円増加、金融派生商品収益の増加等を要因とするその他業務収益は前年同期比2億円増加、その他、投資ファンド運用益の3億円増加や雑収入の1億円増加等によるものです。

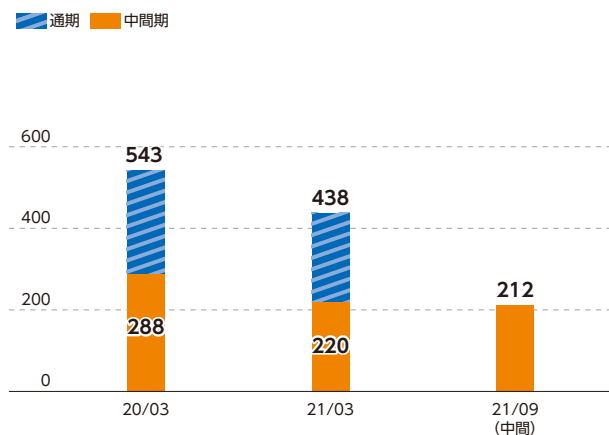
また、経常費用は、前年同期比13億円減少して207億円となりました。その内訳は、預金利息の減少等を要因とする資金調達費用が前年同期比2億円減少、役員取引等費用が前年同期比1億円減少、国債等債券売却損の減少を主な要因とするその他業務費用が前年同期比7億円減少、営業経費が前年同期比8億円減少のほか、貸倒引当金繰入額の前年同期比7億円増加等によるものです。

左記要因により、経常利益5億円(前年同期は経常損失1億円)となりました。

税金等調整前中間純利益は5億円(前年同期は税金等調整前中間純損失0.3億円)となりました。また、法人税等合計が前年同期比1億円減少したことで、親会社株主に帰属する中間純利益は4億円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失2億円)となりました。

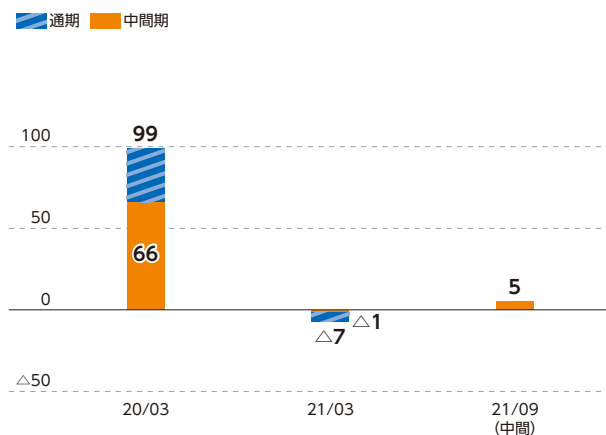
経常収益(連結)

(億円)



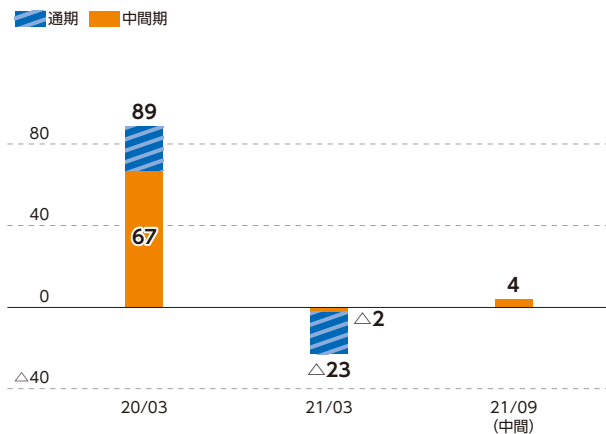
経常利益(連結)  
(△は経常損失)

(億円)



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益  
(△は親会社株主に帰属する中間(当期)純損失)

(億円)

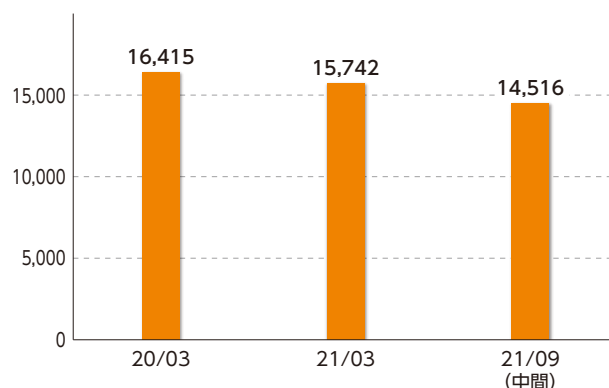


### ■ 財政の状況

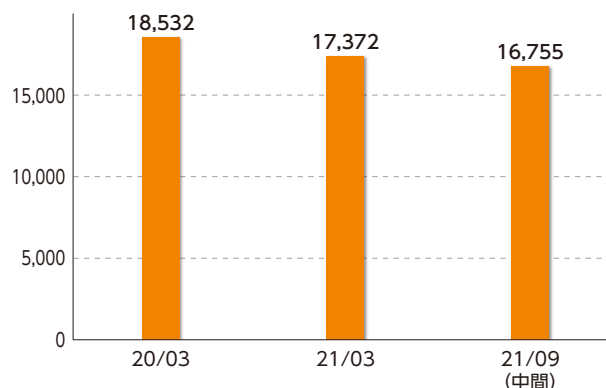
2022年3月期中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末比1,889億円減少し2兆1,287億円となりました。このうち貸出金については、前連結会計年度末比1,226億円減少し1兆4,516億円となりました。また、有価証券は、前連結会計年度末比

423億円減少し1,492億円となりました。負債は、前連結会計年度末比1,896億円減少し1兆9,645億円となりました。このうち預金は、前連結会計年度末比616億円減少し1兆6,755億円となりました。

貸出金残高(連結) (億円)



預金残高(連結) (億円)



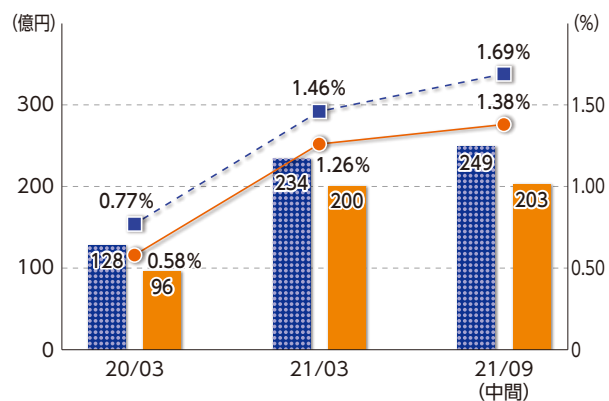
### ■ 不良債権比率

2022年3月期中間連結会計期間末における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、部分直接償却\*を実施しなかった場合には前連結会計年度末比0.23%上昇し1.69%、部分直接償却を実施した場合には前連結会計年度末比0.12%上昇し、1.38%となりましたが、依然として低位で推移しています。

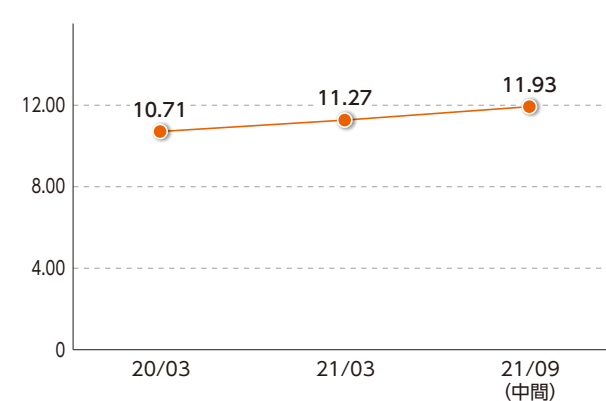
### ■ 自己資本比率

2022年3月期中間連結会計期間末の連結自己資本比率は11.93%となりました。当行ならびに当行グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結) (億円、%)



自己資本比率(国内基準、連結) (%)



部分直接償却\*を実施しなかった場合 部分直接償却\*を実施した場合  
 不良債権比率 不良債権残高 不良債権比率 不良債権残高

\*部分直接償却とは  
 破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。